

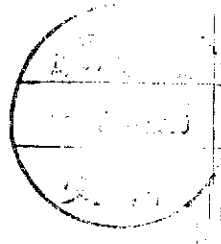
ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

1978

1978年

1-2月号



謹 賀 新 年

昭和53年の初日を迎え、

皆様おめでとございます。

昨年は、本会の運営もきびしい財源に追いつけられましたが、市当局のご理解あるご指導と、会員一同の献身的なご協力により多大の成果をあげることが出来ました。

ここに厚くお礼申し上げます。

カモ エサ不足に悩まされた手賀沼のカモ、利根川の白鳥に、遠く群馬、東京、神奈川を初め、近隣市町村の方々、及び地元の皆さんより暖かい愛情が寄せられました。

多額のエサ代、学級給食のパン屑、農家のクズ米、茶ガラ等、沢山のプレゼントをいただき有難うございました。

探鳥会 毎月恒例の探鳥会一手賀沼カウントにより野鳥及び水鳥の種類、羽数、生態等についての継続的な調査が進められました。

今年は更に、利根川沿岸及び市内全域についての調査を進め資料の作成につとめたいと思います。

ホタル 6月1日～7月31日までの2ヶ月間に飛んだ数は3000匹に達したと思われれます。最盛期には毎夜300匹～400匹は見られたでしょう。繁殖地域も延長300メートルに及びました。

観賞に訪れた人達は遠く、東京、横浜、船橋、松戸、流山、柏等、更に地元の人達を数えると数千人に達したようです。

初めて見る人、30年ぶりに見たという

人、さまざまでしたが、なつかしい、楽しい思い出になったことでしょう。

しかしながら一方では毎晩つづける「ホテル」バトロール。これも大変な苦勞でした。

野草 昨年初めての行事、それは野草観察会。

布施弁財天付近及び古利根周辺を春秋2回にわたって歩きました。大変人気を呼び、特にご婦人層に親しまれたようです。

また、昨秋の高野山小学校家庭学級の野草勉強会には、野鳥を守る会も参加しました。植物学者であられる柏市の青藤吉永先生を、お招きして親切なご指導をいただきました。こんにちまで邪魔物扱いされ見捨てられた野草が、私達の身近なものであり、日常生活に必要な食糧資源であることがわかりました。皆さんから大変好評をいただき有難うございました。

以上は52年度の行事の概要であります。

今年もまた市民の皆様よりいろいろな御希望をお寄せいただき、会員一同力を合せ頑張ってまいりたいと思っております。

みんなに親しまれ、愛される文化団体としてありますことを願ってやみません。

年頭にあって所感をのべ御挨拶と致します。

渡 辺 義 雄

☒ 行事案内

◇ 手賀沼カウントと探鳥会

月 日 1月2日(日)雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
担 当 畑, 飯泉, 坂巻

月例の手賀沼水鳥調査ですが、今回から探鳥班も設けましたから、はじめての方でも参加できます。探鳥班は市役所から大津川河口付近まで約2.5K歩いて、調査班と合流して正午頃現地解散の予定です。

◇ 新春手賀沼(下沼)探鳥会と集い

月 日 1月8日(日)雨天決行
集 合 我孫子市役所 午前9時 但し、
雨天の場合は、高野山の香取神社、
午前10時集合。
担 当 渡辺他全幹事

市役所から、鴨の餌場に行き、みんなで餌を撒き、観察舎で観察してから、遊歩道の終点付近で沼の水鳥を観察をします。そして、香取神社で昼食をとり、午後3時頃まで歓談、ど放談でたのしい時を過ごしたいと思います。

当日は、茨城大学教授玉崎幸二先生(会員)に、お話しをして頂くようお願いしております。

昼食は各自持参下さい。お茶等は会で準備いたします。

◇ 銚子探鳥会

月 日 1月22日(日)雨天中止
集 合 我孫子駅発 午前7時42分、成
田行電車の後部に乗車。

(成田着8時34分、同発8時59分銚子行を利用)

乗車券は各自買って下さい。片道900円位。

担 当 高橋

銚子港でカモメ類の探鳥です。時間があれば海の方にてでウミウ、ヒメウ、海鷗等もみたいと思います。昼食持参のこと。

なお、この行は日本野鳥の会千葉支部の行に合流する予定です。

◇ 手賀沼カウントと探鳥会

月 日 2月5日(日)雨天中止
その他は前掲と同じです。

◇ 菅生沼探鳥会

月 日 2月12日(日)雨天中止
集 合 常盤線天王台駅改札口、午前8時
30分。

交通等 自家用車便乗ですので、便乗の方は会費として1000円負担。予約制につきあらかじめ下記に申込んで下さい。

申込先 志賀鉄雄、柏市豊四季台3-1-
56-103 TEL0471-
65-8613

今回は野田市野鳥同好会との合同です。

菅生沼は茨城県西方にある沼で、手賀沼とほぼ同種の鴨の他カワアイサがみられ、ワシタカ類もよくでるところです。昨年は厳冬だった関係か白鳥や雁などの南下が伝えられ、マガンが飛来しました。

今回も期待したいですね。時間があれば座生沼にも寄りたいと思います。弁当持参下さい。

担 当 畑, 志賀

◇ 手賀沼(上沼)探鳥会

月 日 2月19日(日)雨天中止
集 合 千代田線北柏駅改札口、午前9時
担 当 木村, 中尾

沼でいちばん多くの種類がみられる場所で

す。天候がよければ沼の南岸を手賀大橋まで探鳥します。徒歩6k位ですが時間を十分かければ、それだけのことはあります。なるべく弁当持参がよいと思います。

当日北西の風が強ければ北岸を手賀沼公園まで歩くこととなります。

○ 行事報告

○古利根周辺の探鳥・野草会 10月2日

8時30分頃、湖北駅改札口に集合した。

空は、晴れてはいたが、比較的曇も多かった。駅の北方、やや離れた電線に、ムクドリが多数群れていた。

そして、運動会でもあったのだろうか、突然、けたたましい花火の音がして、ムクドリ達は、パッと舞い上がり、やがて視界から姿を消した。この日の日程は、リーダーの吉田さんより説明され、この会に初めて参加された人達の紹介もあって出発した。

草むらには、北米に故郷を持つ帰化植物のアメリカセンダングサや、セイタカアワダチソウなどが花を咲かせていた。

余り、広くない路地を何回も曲って、古利根方面へ列が進んだ。「今日は、鳥があまり見られそうもないから、植物が中心になりそうだね。」という声も聞かれた。

人家の庭に、ウメドキが赤い実を沢山つけていた。ススキの穂が風に揺らぎ、クズの花で飾られた道を行くと、ムクドリが沢山群がったエノキやケヤキの大木に出合った。

近づくと、羽音高くパッと一斉に飛び立っていった。この時、飯泉さんが、「鳥が集まる木を調べてみると、面白いですよ。」と教えてくれた。

ガズミヤゴズミが赤い実をつけた茂みを下ると、ジョウクモが多数網を張っているのに出合った。そして、水田を隔てた林にコサギが身動きもせずに留まっていた。

「電線にムクドリがいる。モズもいる。」という声に、みんなが代わるがわるレンズをのぞき込んだ。目の前の湿地には、ソウセイジを串刺ししたようなヒメガマが林立していた。

道路沿いの土手にはアキノノゲシ、イヌキクイモ、イヌタデなどが美しい花を咲かせていた。やがて、私たちは、林の中へと吸い込まれた。すると頭上から、ジューイ・ジューイと、姿を隠したカケスの声が響いて来た。

林床には、シダ植物のイタチシダ、ベニシダなどが見られ、崖にはミッデウラボシ、樹木にはノキソノブが着生していた。

私は学生版の牧野植物図鑑を片手に、記憶の不確かなもの、未知なものなどを次々に調べていった。そうすることがとても楽しみだし、生きがいに思えた。

古利根沼では、アヒル以外にはほとんど鳥影もなく失望させられた。

沼の辺には、ものすごく大きな酒樽が転がしてあり、草むらには、コシオガマが美しい淡紫色の花をつけ、台地の斜面には、ミツバアケビが果実を開きかけていたのが印象的だった。子どもの頃、甘く熟れたアケビの実を口にしたら思い出がよみがえる。

やがて、私たちの列は引き返し、林を抜けると、目前に広々とした水田が開けた。

そして、老人福祉センターや、クリーンセンターなどが遠くに望まれた。

山裾には、ヤマハツカ、ナンテンハギ、シラヤマギクなどがそれぞれ地味な花を咲かせていた。また、ガズミヤゴズミの果実も熟していて、六才の娘は腹痛でも起しはせぬかと心配になるほど、ガズミの実を口にされていた。

休日には、出歩くことの多い私に、女房の機嫌も悪く、やむなく、足手まといに思えたが、娘を連れての参加だった。

娘はくたびれたとも言わずについて来た。散会后、娘の手を引いて帰途に着くと、山裾にシロバナノサクラタデが、林の中にはハ

エドクソウが目についた。

空はすっかり晴れるが、頬うつ風は秋のものだった。

佐久間 俊行

〈認めた鳥〉キジバト、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシボソガラス、ツバメ、カケス、ホオジロ、コサギ、以上9種

〈参加者〉加藤聡理、高橋武子、島田禎三郎、岡美幸、奥嶋欽吾、同睦美、青木毅、同みよ、三神鶴吉、同淑子、村上幸枝、同敬子、中尾照平、飯泉仁、木村稔、同正子、佐久間俊行、同洋子、田中、石戸源次、吉田昇（以上21名）

○ 谷津干潟探鳥会 10月10日

曇っていましたが、つぎのとおりシギチに満足した探鳥でした。

〈認めた鳥〉ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、シロチドリ、メダイチドリ、ダイゼン、キョウジョシギ、トウネン、ヒバリシギ、ウズラシギ、ハマシギ、キリアイ、コアオアシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オグロシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ウミネコ、ヒバリ、ハクセキレイ、モズベニスズメ、以上30種

〈参加者〉田村嘉久、志賀鉄雄、飯泉仁、関宮子、外1名、小野勝義、三神鶴吉、淑子、高橋敏夫、（以上9名）

○ 手賀沼(下沼)探鳥会 10月30日

逆光のコースでしたが、曇り日が幸いして落着いて、ゆっくり水鳥の観察ができました。

〈認めた鳥〉カイツブリ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、コジョケイ、

バン、オオバン、ユリカモメ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、カブラビワ、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハシボソガラス、タシギ、ジョウビタキ、（以上31種）

〈参加者〉浅間茂、佐久間俊行、富田光子、山崎りんえ、藤沢謙三、中弘、庄崎富佐子、高橋敏夫、同静子、渡辺波江、星野明彦、三神鶴吉、飯泉仁、志賀鉄雄、志賀哲也外2名（以上17名）

○ 不忍池観察会 11月6日(晴)

ボート池ではカイツブリがオールにふれんばかりに泳いでいて、びっくりしました。

同じ野性ガモでも手賀沼では人をおそれて逃げ去ります。不忍池ではガモの方から人に近づいて来ます。うらやましいですね。

カモはオナガガモが断然多く、他の種は少数でオンドリとアメリカヒドリは各1でした。

〈観察した鳥〉カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ、オンドリ、アメリカヒドリ、カワウ、シロフクロウ 等

〈参加者〉畑幸正、玉崎幸二、飯泉仁、浅間茂、佐久間俊行、田村嘉久、高橋敏夫、中尾照平、木村稔（以上9名）

追って、ペンダブームで園内は超満員のため猛きん類の観察は中止しました。

○ 手賀沼(上沼)探鳥会 11月27日

夜来の雨は午前7時頃に止みましたが、市内バスは時限ストでストップ、それでも定刻には8名となり、まだ厚い雲に覆われた空を気にしながら出発し、途中3名の方が加わり同行11名となりました。

サザンカの生垣は白と淡紅の花をちりばめ、その垣根の隅で幾何学的な白い花を咲かせて

いるヤツデ、私の好きな路ですが、今日の一行の足並は速く、家並ははずれると早くも沼畔でプロミナー（望遠鏡）の列です。そしてカルガモの群だけでも、ハンビロガモばかりの群にも、湖面を丹念に探っていました。おそらく、カンムリカイツブリが念頭にあってのことでしょう。今日はプロミナーが湖面に惹かれればなしてした。

おしまいのプロミナーの視野は沼の奥部、大堀川のデルタ地帯です。15羽のアオサギが一列に並び赤い脚のツルシギ3羽、その他17種の鳥が、それぞれ群をなして休むもの、せわしげに餌を拾うもの、いつまでも見まきることのない眺めてした。

鳥合せがすんで帰途についた前面は、雲一つなく晴れあがった青い青い空の下に濃い緑の木々の群がりの中に黄葉した木を配し、その下に静かな代官預跡の建物が所を得て、そのたたずまいに、異口同音、いいですなあ、の声に、正にゆく秋がそこにはありました。

私達もその風景の中の人となり、落葉に肩をたたかかれて帰りました。カンムリカイツブリこそ見られませんでした。たのしい探鳥でした。

〈認めた鳥〉 カイツブリ、コイサギ、タイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハンビロガモ、ミコアイサ、コジュケイ、オオバン、シロチドリ、トウネン、ハマシギ、ツルシギ、タカブシギ、タンギ、ユリカモメ、アジサシ(1)、キジバト、ヒバリ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、アオジ、オオジュリン、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハンボソガラス、(以上39種)

〈参加者〉 木村稔、大槻いずみ、中弘、庄崎富佐子、河野芳樹、飯泉仁、畑幸正、中尾照平、松田幸保、志賀鉄雄、高橋敏夫、(以上11名)

○ 手賀沼カウント

調査日時 10月7日(晴~曇)	
8時45分~12時30分	
調査者 飯泉 仁	
鳥 種	個 体 数
カイツブリ	5.2
ゴイサギ	3
タイサギ	20
コサギ	56
アオサギ	6
マガモ	3
カルガモ	138
コガモ	148
ハンビロガモ	9
バン	2
オオバン	70
ユリカモメ	63
アジサシ	135
コアジサシ	32
計	737
他にツバメ2, プンチョウ2	

調査日時 11月13日(曇)	
9時~12時30分	
調査者 三神鶴吉, 志賀鉄雄, 同哲也, 木村稔, 飯泉仁, 中尾照平, 和知隆作 大槻いずみ, 坂巻忠雄, 高橋敏夫, 佐久間俊行	

鳥 種	個 体 数
カイツブリ	61
カンムリカイツブリ	2
ダイサギ	16
コサギ	59
アオサギ	9
マガモ	62
カルガモ	516
コガモ	510
オカヨシガモ	125
ヒドリガモ	9
オナガガモ	86
ハシビロガモ	435
ホシハジロ	20
ギンクロハジロ	14
ミコアイサ	9
バン	5
オオバン	210
コチドリ	6
シロチドリ	10
ハマシギ	32
ツルシギ	3
タカブシギ	29
タシギ	25
ユリカモメ	62
計	2,315
他に、ハヤブサ 1, セグロセキレイ 1,	

① 会の行事の外、会員有志により次のような活動が行なわれ、皆さんから喜ばれております。

◎ ガール・スカウト探鳥会にて(10月1日)
今日は、ガール・スカウトの探鳥指導という事で、我々担当幹事は、大はりきり。

P.M. 2時すぎ中央公民館前に集合、おたがいに紹介をうけたあと、本日の担当主任の

坂巻さんから、コースの説明、鳥を見るときには、どんなことに気をつけるのかというお話があり、いよいよ出発である。

5つのグループに分かれ、それぞれに幹事1名ずつ担当。

手賀沼遊歩道を進み、大橋を渡り、沼両側へ進む。

子供たちの目は、さっそく鳥を見つける。「ねえ、あそこにひらひら飛んでいる白いツバメみたいな鳥は、何んていうの?。」
「あそこの、水の中によくもぐる小さな鳥は?。」

神妙な顔つきでプロミネーをのぞいている。

首をかしげ、図鑑をめくり、「これだね」とか「かわいい。」と、はしゃいでいる。

そんな、なごやかな雰囲気では歩いてると、早いものでもう終点。鳥合せをしてUターン。

ところが、その帰路、ヨシ原にムギマキが、2羽出現する。「淡い赤かった色の胸が、すてきでしょ。」とばかりこちらを向いている。

うっとり見とれてみると、スカウトたちのおむかえが、遊歩道の入口まできているとのことで、そこで解散となる。

「バイバイ、またねエ。」

「また、いらっしゃい。」と手をふる。

P.M. 4:30 終了。幹事一同、ムギマキとの対面について一言。

「やっぱり、心がけですかね。」(笑)

(飯泉 仁 記)

指導幹事、坂巻忠雄、飯泉仁、三神鶴吉、志賀鉄雄、松本克博、

参加者 約30名

<認めた鳥> カイツブリ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、コガモ、コジュケイ、バン、オオバン、エリマキシギ、タカブシギ、キアシシギ、オオソリハシシギ、ユリカモメ、アジサシ、コアジサシ、キジバト、ヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ムギマキ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、

手賀沼にて

渡辺

深

鴨群れてさわさわ沼に粉雪舞ふ
群鴨に流線の白冬かもめ
捨て舟にひたひた鴨の冬日ゆれ
えりへだて仲間はずれの小鴨啼く
高空に利鎌の両雨鴨帰る
沼をうつはばたき重し鴨の別れ
つきつきに鴨翔つ沼の雲遠し
えりにより訥々啼けり残り鴨
鴨は去り顔音がく鳩啼けり
鳩もぐりひとつぶの泡生れ消ゆ

(以上28種)

上記について、次のとおり礼状を頂きました。

保々敬子

先日はお忙しい中を、スカウトのために、楽しい一時をつくって頂きまして、有難度うございました。思いがけず、沢山の野鳥の姿に接し、スカウト達も大変喜びと興奮に満ちて家路につきました。野鳥の会の5人の方には行届いた御指導をして頂き、はじめてお会いしたとは思えない親しさを感じ心から感謝しお礼申し上げます。

出来ませすれば冬の日にでもまたこのような会を計画したいと考えております。

本当にありがとございました。

坂巻忠雄あて

今年も鴨たちのために
茶ガラ等をお願いします。

「秋の野草をたずねて」

我孫子市立高野山小学校家庭教育学級指導員

中村祥子

十月も半ばを過ぎ、庭のそこそこに赤黄の木の葉が目立ち始めた秋の一日、高野山小学校家庭教育学級主催の郊外授業「秋の野草をたずねて」が催されました。

家庭学級にとって今年初めての野外での授業でもあり、学級生であるお母様方共々、まるで小、中学生時代の遠足にでも出掛けるように、おにぎり弁当に水筒を携えて胸をワクワクさせながら小学校前に集合しました。

野鳥の会のお骨折りで、特別講師として、ご参加下さった植物学の大家、斉藤吉永先生はじめ、野鳥の会の渡辺会長、石戸さん、吉田さん、高橋さん他のみなさん、それに学級生も加えて総数約40人、「道端には美味しい野草が沢山あるので今日から八百屋に通う必要がありません。家計が楽になりますから余ったお金はフスマに貼るか、チリ紙代りに

使って下さい」という斎藤先生の面白いお話を聞きましてスタートしました。

道すがらのご説明の中で、足もとの名もない草の殆んどが天ぷら、おひたし、三杯酢にすることができること、私達が日頃ぜんそくの敵、植物のガンとと思っていた、セイタカアワダチ草は、実は酸素を貯蓄する有効な野草であり、その枯枝は茶室の建材として用いることができ、主婦のアルバイト源になるということ、ほうせん花の種は2・3つぶ、つぶしてのめば、魚の小骨が喉にかかった時に役立つこと、蠅とり草の根っ子は水にひたしておくと一年中蠅の殺虫剤として使えること、毒だみ草は、ニキビに効くこと、等々、今迄気にも留めなかった木の葉や草が意外にも私達の日常生活に大いに効用を持っていることを発見しました。又、母乳の出が良くなる草、虫さされて効く草、虫下しに良い草、不老長寿の草、等々、どれもこれも耳新らしく、興味深く、いつの間にか人里離れた野道に足を踏み入れていました。

「はたる養殖の池……野鳥の会」と書かれた立看板のあるはたる池を左にみながら、どこか遠くの別世界にでも来たように、道端の草に目を凝らしつつ、前へ進んでいきました。うっそうとした木立に囲まれ、頭のはるか上にあけびがなり、ハラハラと落葉が舞い散る小道を踏み進みながら、こんな場所が我家から徒歩1時間足らずで来られるなんて、全く信じられないくらいで、零囲気にすっかり陶醉してしまいました。5年前当地へ家を求め転居してから、この時ほど我孫子に来て良かったと感じたことはありませんでした。

家庭学級のお母様方も殆んどが他より転居して間もない方々であり、「我孫子って良いとこねー」と口を揃えて感激し、春には是非「春の野草の会」を開きたいと、全員意見が一致しました。

会に参加してまだ2週間と経っておりませんが、今日まで家族とお弁当を持って3回も訪れ、そしてまた明日の日曜日に出かけたいと思っています。子供はどんぐりの実がいくつ増えたと喜び、夫はゴルフで歩くより健康的で気持ちが良いと申し出ている我家の変わり様です。

◎ 御 寄 付 等

金五千円也(カモのエサ代として)
群馬県榛名町 今井ソノ様
金千円也 市内江蔵地 鈴木由造様
金五百円也(カワラナデシコの謝礼)
千葉県千倉町 相川雪子様
金五万円也(補助金)

我孫子市観光協会様
金十五万円也(52年度補助金)

我孫子市様

水鳥の餌料として

屑 米 中村 聡様 荒井尚徳様
荒井 満様 渡辺義雄様
渡辺勝義様 鈴木光男様
茶ガラ 中尾照平様 柴田満子様
吉川藤太郎様 岡田群司様
佐々木美津恵様

御芳志有難く御礼申しあげます。

我孫子野鳥を守る会会報 第20号

発行人 渡辺 義雄 TEL 82-0521
住所 我孫子市高野山556
振替 東京4-5168 我孫子野鳥を守る会
会費 年額 1,500円